

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)パロー西春店	階数	地上1F
建設地	愛知県北名古屋市沖村山ノ神28-10	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	200 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	5,460 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2014年12月25日
敷地面積	6,803.72 m ²	作成者	(株)上野山都市設計 山下賢一
建築面積	3,000.81 m ²	確認日	2014年12月25日
延床面積	2,887.56 m ²	確認者	(株)上野山都市設計 山下賢一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (100 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 96% (96 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 96% (96 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 96% (96 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>11.9 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境									2.8
1 音環境									1.8
1.1 騒音									3.0
1 室内騒音レベル									3.0
2 設備騒音対策									-
1.2 遮音									1.0
1 開口部遮音性能									1.0
2 界壁遮音性能									3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0
1.3 吸音									1.0
2.1 室温制御									2.4
1 室温									3.0
2 負荷変動・追従制御性									0.50
3 外皮性能									3.0
4 ゾーン別制御性									0.17
5 温度・湿度制御									0.33
6 個別制御									-
7 時間外空調に対する配慮									-
8 監視システム									-
2.2 湿度制御									3.0
2.3 空調方式									0.20
3 光・視環境									3.0
3.1 屋光利用									3.0
1 屋光率									3.0
2 方位別開口									-
3 屋光利用設備									3.0
3.2 グレア対策									3.0
1 照明器具のグレア									3.0
2 屋光制御									-
3 映り込み対策									3.0
3.3 照度									3.0
3.4 照明制御									3.0
4 空気環境									4.0
4.1 発生源対策									5.0
1 化学汚染物質									5.0
2 アスベスト対策									1.00
3 ダニ・カビ等									-
4 レンズネラ対策									-
4.2 換気									3.0
1 換気量									3.0
2 自然換気性能									0.50
3 取り入れ外気への配慮									3.0
4 給気計画									0.50
4.3 運用管理									3.0
1 CO ₂ の監視									0.20
2 喫煙の制御									1.0
									0.50
									5.0
									0.50
Q2 サービス性能									3.0
1 機能性									2.9
1.1 機能性・使いやすさ									3.0
1 広さ・収納性									3.0
2 高度情報通信設備対応									3.0
3 バリアフリー計画									1.00
1.2 心理性・快適性									2.6
1 広さ感・景観									4.0
2 リフレッシュスペース									0.33
3 内装計画									1.0
1.3 維持管理									3.0
1 維持管理に配慮した設計									3.0
2 維持管理用機能の確保									0.50
3 衛生管理業務									3.0
2 耐用性・信頼性									2.7
2.1 耐震・免震									3.0
1 耐震性									3.0
2 免震・制振性能									0.48
2.2 部品・部材の耐用年数									2.4
1 躯体材料の耐用年数									3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									0.23
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									2.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									0.09
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔									0.15
									0.23

2.4 信頼性				2.6	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備			②	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				
3 対応性・更新性				3.6	0.29				3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり				5.0	0.60			3.0	
2 空間の形状・自由度				5.0	0.40			3.0	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			3.6	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペース				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				2.1
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-				3.1
LR1 エネルギー				-	0.40				3.0
1 建物の熱負荷抑制				2.0	0.30				2.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20				3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50				
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50				
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30				4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0					
集合住宅の評価				3.0					
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.2
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63				3.1
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21				
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		3.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			4.0	0.25				
鉄骨の乾式工法のため分別が容易である				4.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.32				
シックハウス対策もあり有害物質のないものを採用している。				5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮			①	必要最小限の設備機器の設置による電気使用総量の少量化をす	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
燃焼設備は一切使用していない				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25				
3 交通負荷抑制	●			5.0	0.25				
大規模小売店舗立地法により交通解析をおこなっている				5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音	●			3.0	0.33				
2 振動	●			3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				3.0	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

